

よつ葉だより

2020 年
3月9日号
No.595

地産地消～いのちと健康



くらしを守る～

よつ葉生活協同組合

よつ葉生協の皆さんに心から感謝します。

2011.3.11大震災・東京電力福島第一原発事故 10年目をむかえた福島の今

2011年の「3.11大震災 東京電力福島第一原発事故」から十年目を迎えようとしています。

この間、よつ葉生協の皆さまからは、多くのご支援と激励をいただき感謝の気持ちで一杯です。とりわけ「放射能被害から子どもを守る会」への温かい支援によって、数多くの避難ツアーや交流会、放射能測定活動(地元野菜や体の内部被ばく)を継続して行うことができ、あいコープふくしま組合員・家族、生産者の対策と安心に成果を挙げることができました。

あいコープまつりでは、毎年よつ葉生協コーナーで「ジャガイモ入り焼きそば」の提供や、「ふくしま元祖長れ!」と声をかけていただき、「不安の顔」が「笑顔」に変わりました。またあいコープまつりは、子どもとお父さんを含め家族で参加し、楽しみ、学ぶ、まつりに成長しつつあります。100名を超える子どもサポーターの声と勢いは「放射能被害から子どもを守る会」を活用した「庄内浜ツアー」生産者ツアー等々を体験した子ども達の広がりでもあります。

このように、よつ葉生協を始め、生産者の皆さま、全国の方々からの支援と交流が、私たちを支え、「復興」の道を歩むことができてきたと言えます。



国道6号線を浪江町にむけ北上中、大熊町付近車は通過のみで停車も駐車も禁止。右折も左折も許可証がなければできない。放射線量は2μSv前後

生活協同組合あいコープふくしま
理事長 佐藤 孝久



広野町の復興住宅。本宮市の仮設住宅が廃止され2017年2月から転居。大倉さん(左側)が興さんと暮らす。家賃負担④一の宮生協から支援品を渡し、このエリア内54戸の入居者にお届けを依頼しました。(あいコープふくしま 佐藤理事長(右側))

しかし、原発事故による被害は縮小面もありますが、個々の課題は深刻度が深まっています。とりわけ原発周辺市町村の住民は、現在でも4万2,000名が故郷に戻っていません。この9年間の避難生活は一人ひとりに大きなダメージを与え、その最大は「喪失感」です。「毎年一つひとつ大事なものがなくなっていく。親の入院と死、自身の健康…」精神障害や引きこもり、アルコール依存症等、高齢者ほど喪失感は大きく被害は深刻です。

現在、楢葉町に住む佐藤龍彦さん(私の古くからの友人)は、7年2ヵ月振りに故郷に戻りました。その町の現状は「若者が戻ってきていない。日常的には救急車と葬儀社が多く行き交う高齢者の町になった…」と。浪江町に戻ろうとしている大倉満さんも、事故前は元気に畑作をしていたお母さんが入院生活になりました。 つづく →

2人の息子夫婦も県内外で生活が始まり、三世が一軒に暮らしていた生活を失いました。この現実、多くの地域、人々に共通しています。「子育て世代の帰還促進」に川俣町山木屋地区に開校した「小中一貫校」(約11億円整備)も新入生がなく、わずか1年で休校。飯舘村は、約40億円かけて3つの小学校の統合と整備をしましたが、子どもは帰ってきていません。それは放射能汚染であり、農林業、酪農が戻らないこと、そして9年間の避難生活で故郷とは違ったところに定着したと言えます。

常磐線の全線開通、駅舎の建設、役所の新庁舎完成、新規企業の設立、大型スーパー店の開店など復興の兆しも見えますが、安心して暮らすためには大きな課題があります。生活の土台の仕事です。関連して放射能被害の元凶である福島原発第一号炉～第三号炉の廃炉作業が順調に進むことです。しかし、それでも30～40年かかる

わけで、「それまで待てない」と誰もが考えます。現実の廃炉作業も極めて厳しく、炉心溶融(メルトダウン)による溶融核燃料(デブリ)の取り出し一つでも、強力な放射線下での作業で手深り状況と言えます。汚染タンクの保管の限界性、汚染のカレキ、解体した原子炉はどこに捨てるのか、燃料棒やそのデブリはどこにも捨てる場所はありません。処分する方法も挫折したまま、すべて先延ばしにされたままの状態の原発周辺地域に子どもを含めた家族が暮らす選択を誰がするのでしょうか。事故から10年も過ぎようとしているのにこうした現状は、改めて原発事故が自然や地域社会に取り返しのつかないダメージを与えていることを教えています。全国の原発の再稼働、原発の製造と輸出など、国の対策として大転換すべきと言えます。



持続可能な社会づくりを～ネットワーク21定例会報告～

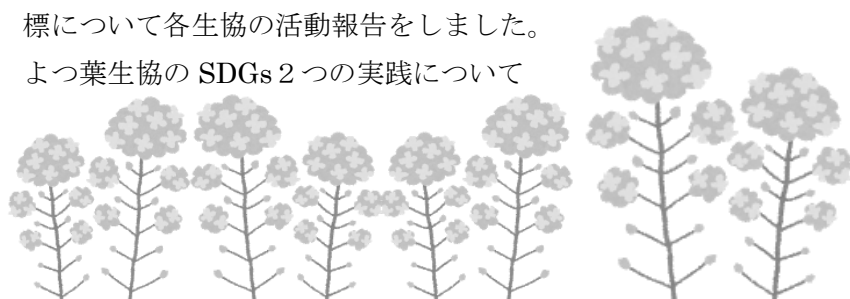


農薬を使わない取り組みや、遺伝子組み換え作物の禁止など、全国的に大きな動きにつなげるためには、情報を共有して一緒に活動する仲間を増やしていくことが必要です。生協ネットワーク21は、宮城県から四国まで、よつ葉生協と同じような考え方を持つ12の生協・事業連合が集まってネットワークを作り、様々な社会的問題や課題解決に向けて、定期的に勉強会などを行っています。

毎年2月に開催する定例会では、共通する課題について、それぞれの生協での取り組みを発表し合い、各生協へ持ち帰って今後の活動の参考にもしています。

今回の定例会のテーマは「持続可能な社会 SDGs」。次世代が豊かに暮らすために、世界的にすすめる17の持続可能な開発目標について各生協の活動報告をしました。

よつ葉生協のSDGs2つの実践について



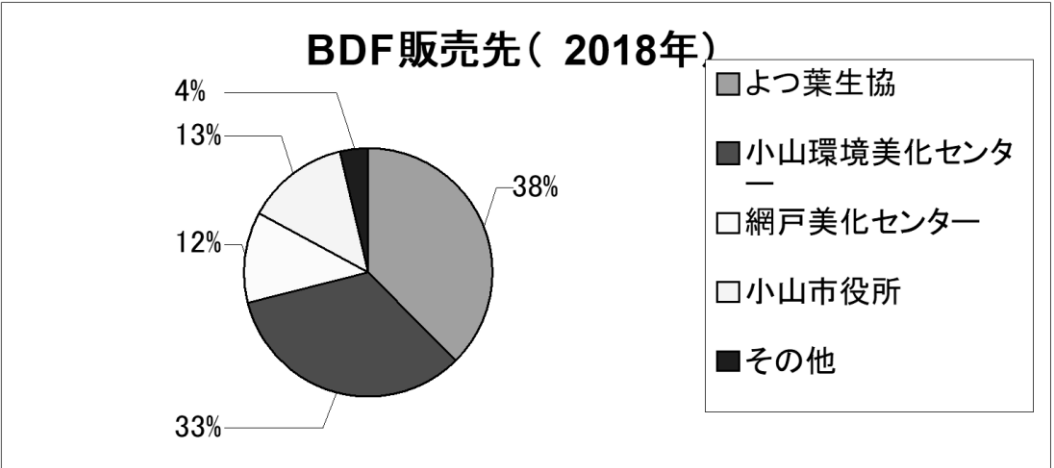
【実践①】

製油した廃食油の配送トラックへの利用(目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに、目標13 気候変動に具体的な対策を)・・・小山市菜の花プロジェクト

CO₂削減のための取り組みとして、小山市菜の花プロジェクトと協同で、よつ葉生協の地元、栃木県小山市で栽培した菜の花を食用油に加工した菜の花オイルを販売しています。この菜の花オイルは、小山市内の障がい者施設にて製油したもので、非加熱コールド製法で作られています。また、地元小中学校、公民館、他市町から廃食油(揚げ油等)を回収し栃木県小山市のポーラーズ研究所が精製、販売しているBDF(バイオディーゼルフェュエル)。このBDFを、よつ葉生協の配送車6台の燃料として使っています(2008年6月から1台で開始)。排出するCO₂は、菜の花栽培時に吸収されるので、カーボンニュートラルであり、化石燃料の削減に寄与しています。

2018年度廃食油回収 47,016kg

2018年度 BDF販売 16,382ℓ



【実践②】 商品カタログ「くらら」への竹紙使用（目標15 陸の豊かさを守ろう）：中越パルプ&生活アートクラブ&伴印刷（株）
かつては日本人の生活や文化に密着し、様々な場面で使用されていた竹。しかし、生活様式の変化やプラスチックという代替品が登場したことで、放置されたままの竹林が日本各地でみられるようになっていきます。管理されず放置されたままの竹林は、竹の旺盛な成長力から光を求めて森林や里山に侵食し、土砂災害など原因の一つとして、日本各地で大きな社会問題となっています。

この問題を解決するためには、かつてのような竹の大量消費が不可欠です。特に、九州地域はタケノコの生産地として竹林が多く、放置竹林だけではなく、タケノコの生産性を上げるために行う間伐作業後の竹の処理が大きな問題となっていました。
中越パルプ工業株式会社（鹿児島県薩摩川内市）では、地域貢献の一環として、1998年から地域間伐竹の有効活用に取り組みを始めました。

中越パルプ工業株式会社（鹿児島県薩摩川内市）では、地域貢献の一環として、1998年から地域間伐竹の有効活用に取り組みを始めました。
成長の早い竹は、中が空洞のため、製紙原料としては木材に比べて効率が悪く、また、木材とは違う竹の性質上、チップにする工程も難しいという理由から、現在、日本の他の製紙工場ではほとんど扱っていません。中越パルプではタケノコ農家やチップ工場の協力を得ながら試行錯誤を重ねて竹の集荷体制を作り、現在では年間2万トンを超える量が集まっています。中越パルプでは2009年から国産竹100%の紙の製造販売を開始、ノートや紙袋、パンフレット用の紙など、様々な製品を作っています。

よつ葉生協では、環境問題に取り組む生活アートクラブの藤村社長の紹介を受け、2019年の4月からのカタログくららに竹を10%入れた竹紙10の使用を開始しました。カラー印刷用のロール紙に竹を使うことは、技術的にかなり難しいということですが、竹の使用量を上げようと挑戦してくれています。
今回紹介した取り組みはほんの一例です。よつ葉生協で取り組んでいる活動は、SDGsの17目標のすべてに深く関わっています。これからもよつ葉生協の理念「地産地消 いのちと健康 暮らしを守る」によって、全組合員、生協に関わる全ての人、地域の幸せにつながるような活動をすすめます。

（理事長 倉持）

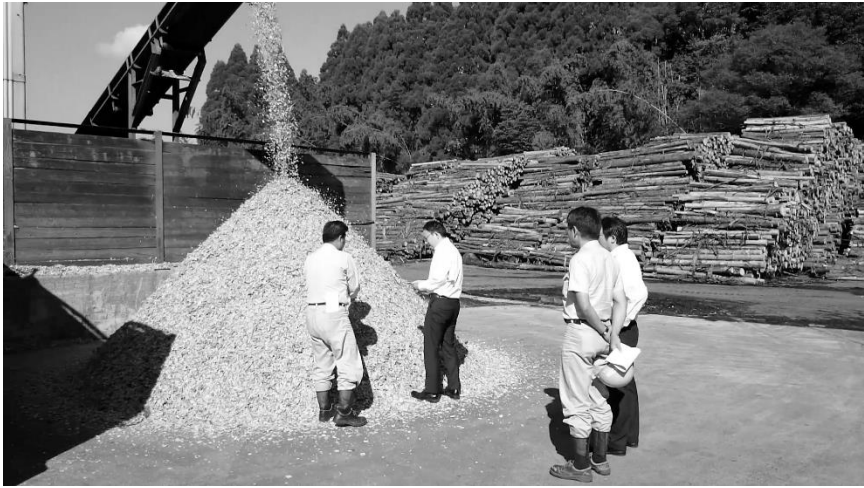
よつ葉だより 2019 年 3 月 18 日号 NO.548 表紙

「くらら」に竹上を入れます
生協で日本初の試みです
環境を考えている人々の力で実現

で掲載した竹紙の材料、竹チップの製造過程の写真です。



「生活アートクラブ 富士村夏樹社長」



「竹をチップにします」

「新型コロナウイルス」感染対策について

世界中で感染が拡大している「新型コロナウイルス」、日本国内でも抑制へ向けて重大な時期を迎えています。よつ葉生協では、国内やよつ葉生協管内の動きなど、発症状況や対応の把握に努め、全体で感染防止に向けて取り組んでいきます。

具体的内容

- ① よつ葉生協全体で手洗いと体調管理の徹底を進めています。商品をお届けする配送担当者や商品セット部門では、朝夕の点呼時や朝礼時に、咳や発熱の症状とともに全員の体温チェックを実施しています。
- ② 厚生労働省からは、主要な感染経路は飛沫感染と接触感染で、食品を介して新型コロナウイルスに感染したとされる事例の報告はないと発表されました。食品取扱者の体調管理やこまめな手洗い、アルコールなどによる手指の消毒、咳エチケットなど、通常行っている衛生管理を徹底するよう、製造業者を含め全体で取り組みます。
- ③ 手洗いは、「石けんを使い、流水で20秒以上」が有効です。各ご家庭でも積極的にすすめて、地域全体で感染拡大防止に向けて取り組みましょう。

第8回 定例理事会報告 2月12日(水)

	加入	脱会	純増	組合員数
組合員数(1月20日現在)	51人	102人	-51人	25,832人

<報告・討議事項>

- (3) 不拡散条約再検討会議 被爆者活動支援募金の経過対応について
核兵器廃絶の願いを国連や現地で、証言活動や原爆展で伝えていく派遣団の活動支援募金を1月5週から2月2週に受け付けました。528名の方々より298,800円の申し入れをいただきました。募金は栃木県生協連にまとめ、日本生活協同組合に送金いたします。
- (4) 八千代町高齢者等の見守りネットワークに関する協定の一部見直しについて
「要援護者の見守り活動等の協力に関する協定」の一部見直しと新協定書の再締結要請がありました。認知症高齢者等の行方不明者の増加が見込まれる中、茨城県では、各市町村に対し、高齢者等の捜索や保護を目的とする「認知症高齢者等SOSネットワーク」の整備を推進しています。業務に支障のない範囲での捜索協力が加わりました。

- (1) 農産部会の開催について
2月20日に2019年度の農産部会を開催します。27の生産者や団体に参加いただきます。当日は、グリホサートの危険性に関する講演会、2団体からの有機農業技術の講演を予定しています。相互交流いただき栽培技術の向上につなげていただくと共に、農薬排除への思いを広げていく機会としています。
- (2) 生協規約等の変更について
4月1日の民法改正に対応して、約款の改正、新設整備をすすめるものです。経済や社会情勢の変化などから、判例や法解釈により定着してきたルールの明文化がされています。周知徹底を約款の再配布やホームページ掲載などですすめていきます。

よつ葉太陽光発電報告

○2019年12月26日から2020年1月27日(33日間)の太陽光発電量は、10,806kWhでした。CO2削減量は3,398kg(18Lの灯油缶を143本燃焼した量)です。

【お知らせ】

2020年4月の民法改正に伴い、「よつ葉宅配利用約款」の改正とよつ葉生協宅配システム利用手数料規定の新設を行いました。今回の改正は、経済や社会情勢の変化に対応し、よりきめ細やかな対応をさせていただくための内容となっております。改正しました約款および規定は、3月9日(月)から3月13日(金)の配送で、組合員の皆様にお届けいたしますので、ご確認をお願いいたします。約款と規定は、ホームページ上でも閲覧できます。

ドキュメンタリー映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」群馬上映会延期のお知らせ

よつ葉だより 2月3日号 NO.590「文化イベント情報」で3月の開催をご案内いただきましたが、「新型コロナウイルス」対策として、7月以降延期となりました。ご理解の程よろしくお願いいたします。

ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告(2月4週分)

ご協力ありがとうございます。
組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています(単位:円)

放射能から子どもを守る募金(900番)	5,800
震災孤児を支援する募金(910番)	16,800
「有機農業と国産種子」募金(920番)	5,900
合 計	28,500

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品」内の「復興支援募金」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮1223
☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101
HP <http://yotsubacoop.jp/>
よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yahoo.co.jp